

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	同種造血幹細胞移植後に集中治療管理が必要になった患者の予後と患者背景因子の探索。
	研究対象者	2015 年 4 月から 2025 年 3 月までに造血器腫瘍に対して alloSCT を行い、その後 HCU にて集中治療が必要になった患者。
	研究目的	造血器腫瘍において、同種造血幹細胞移植は長期寛解を得られる有効な手段です。一方で、強力な前処置や免疫抑制により、重症感染症、多臓器不全をきたし、集中治療が必要になる患者は少なくありません。移植後に集中治療が必要になった患者の予後は一般的に悪いですが、患者背景因子と予後の関連は不透明です。本研究では HCU にて集中治療を行なった患者さんを解析し、その予後と患者背景因子の関連性を解明することを目的としています。
	研究方法	当院の電子カルテ上で同種造血幹細胞移植後に HCU へ入室した患者さんを抽出します。患者背として年齢、性別、BMI、病名等を調べます。その上で、HCU 入室後 90 日時点の生存率等を調べます。
	個人情報保護	研究対象者の個人情報とは無関係の記号を付した対応表でデータを管理する。
	研究期間	西 暦 2025 年 9 月 8 日～西 暦 2028 年 12 月 31 日
	利用又は提供を開始する時期	[v]総長が研究実施を許可した日 [] 西 暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[v] 情報:	[v] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[v] 年齢、[] 生年月日、[v] 性別、[v] 既往歴、[v] 併存疾患、[v] 外来日・入院日・退院日、[v] 臨床検査値、[v] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[v] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[v] ゲノムデータ、[v] 看護記録、[v] その他(具体的に記載:HCT-CTI, SOFAScore 等)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 血液内科 寺中 寛
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		施設名・所属・氏名・連絡先 血液内科 寺中 寛 利用停止のお申し出は 2025 年 11 月 30 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります